

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 国語科

教科	国語科	科目	現代文 B	単位数	2	年次	2
使用教科書	「現代文 B」 (三省堂)						
教材等	「ちくま評論選」 (筑摩書房) 他						

1 担当者からのメッセージ

・現代文の力（語彙力、読解力、思考力、表現力、記述力）を発揮するためには、あらゆる知識を総動員する必要があります。社会の多様な事柄に積極的に関心を持ち、自分のこととして考える習慣を持ちましょう。

・記述力を培うには、粘り強さが必要です。「何度も書き、読んで添削してもらう」経験を繰り返すこと、この努力において身に付けることのできる力です。

・相当な時間と、精神的エネルギーを注入しないと、「現代文」で扱う内容を捉える力は養われません。真摯に取り組んでください。

2 学習の到達目標

・文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価できる。

・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうことができる。

・批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。

・収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することができる。

・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシート等)	行動の観察 (発表等のパフォーマンスの評価)	記述の確認及び分析 (ワークシート、原稿用紙)	記述の確認及び分析 (ワークシート) 定期考査	行動の観察 記述の確認 (ノート、ワークシート等) 定期考査・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単 元 名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a 態 度	b 話 す	c 書 く	d 読 む	e 知 識		
前期	評 論 の 内 容 を 理 解 す る I	教材： 現代評論文	○	○	○	◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 自分の考えが、確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d、e: 行動の観察及び 記述の点検 c、d、e: 定期考査
	小 説 の 内 容 を 理 解 す る I	教材： 現代小説 近代小説	○	○	○	◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 自分の考えが、確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d、e: 行動の観察及び 記述の点検 c、d、e: 定期考査
後期	評 論 の 内 容 を 理 解 す る II	教材： 現代評論文	○	○	○	◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 自分の考えが、確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。	a、b、c、d、e: 行動の観察及び 記述の点検 c、d、e: 定期考査

							いる。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	
小説の内容を理解するⅡ	教材: 現代小説 近代小説	○	○	○	◎	○	a: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 自分の考えが、確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d、e: 行動の観察及び記述の点検 c、d、e: 定期考査
評論や小説の内容を表現する	教材: 近代詩歌 近代小説 近代評論文	○	○	◎	○	○	a: 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。 b: 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 c: 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 d: 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d、e: 行動の観察及び記述の点検 c、d、e: 定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 話す・聞く能力 c: 書く能力
d: 読む能力 e: 知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。

平成 31 年度 国語科

教科	国語	科目	古典 B	単位数	3 単位	年次	2 年次
使用教科書	「古典 B 〔古文・漢文〕」（三省堂）						
副教材等	体系古典文法（数研出版）必携新明説漢文（尚文出版）国語便覧（数件出版）他						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・必ず予習してから授業に臨みましょう。本文に目を通し、単語を調べ、口語訳を考えてくこと。
 ・古文、漢文ともに小テストを行います。やりっぱなしにならないよう、計画的に準備しましょう。
 ・語彙、文法知識をしっかり身につけ、それらに基づいた正確な理解を目指しましょう。そこから豊かな読解の楽しみが広がります。地道な努力なしに古典の扉は開かれせん。

2 学習の到達目標

一年次で学習した知識を確かなものにする。優れた古文・漢文の文章や作品に触れることにより、人間・社会・自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにしようとする積極的な態度を養う。また、古典に親しむことにより言語感覚を豊かにする。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観 点 の 趣 旨	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身につけている。
評 価 方 法	行動の観察 記述の点検 （ノート・ワークシート等）	記述の確認及び分析 （ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 定期考査 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期	説話	中世説話	○	◎	○	a: 比較的短い説話を読んで、古文に親しみをもち、話のおもしろさを理解する。 b: 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 c: 過去の助動詞について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	物語一	歌物語	○	◎	○	a: 比較的短い歌物語を読んで、古文に親しむ。 b: 話の構成や展開を把握し、和歌から登場人物の行動や心情を読み味わう。 c: 歌物語における和歌の役割について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	故事	故事	○	◎	○	a: 比較的短い文章を読んで漢文に親しみをもち、話の内容を理解する。 b: 故事や寓話にこめられた古代中国人のものの見方・考え方を味わう。 本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 さまざまな句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をする。 c: 故事成語の由来を正確に理解し、現代における故事成語の使い方を習得する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	随筆一	中古随筆	○	◎	○	a: 随筆を読んで、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取る。 b: それぞれの章段にふさわしい文体で書かれていることを把握する。 c: 作品の特徴や作者について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	日記	中古日記	○	◎	○	a: 日記を読んで、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取る。 b: 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 c: 作品の特徴や作者について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	文章一	漢文文章	○	◎	○	a: 描かれている当時の中国の人々の生活、ものの見方・考え方を理解する。 b: 本文の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。 c: 作者について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト

	漢詩（近体詩）	唐詩等	◎	◎	○	a：漢詩を声に出して読み、音声として味わう。 b：漢詩の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。 c：漢詩の種類・修辞やその役割について理解する。 さまざまな詩人について理解を深める。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	史伝	史記	○	◎	○	a：『史記』に描かれた当時の中国の人々の生活、ものの見方・考え方を理解する。 b：本文の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。 c：『史記』や司馬遷について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
後期	物語 二	源氏物語	○	◎	○	a：長編物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 b：和歌を含む物語を読んで、物語における和歌の役割を考える。 c：敬語について理解する。 『源氏物語』や紫式部について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	随筆 二	徒然草	◎	◎	○	a：随筆を読んで、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取る。 b：文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 c：表現上の特色を理解し、文体の特徴を理解する。 無常観について理解し、日本文化の特質について考える。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	文章 二	漢文文章	○	◎	○	a：描かれている当時の中国の人々の生活、ものの見方・考え方を理解する。 b：本文の内容を把握し、筆者の主張を理解する。 c：作者や作品について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	思想	古代思想	○	◎	○	a：描かれている当時の中国の人々の生活、ものの見方・考え方を理解する。 b：各文の内容を把握し、その論理展開を理解する。 c：出典や作者について理解する。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト
	物語 三	歴史物語	○		○	a：歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を読み味わう。 b：戯曲的な構成を理解し、内容を的確に捉える。 c：助動詞・敬語について理解し、口語訳に適切にいかす。	行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査 小テスト

※ 表中の観点について a：関心・意欲・態度 b：読む能力 c：知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。

平成 31 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	世界史A 新訂版 (実教出版)						
副教材等	グローバルワイド最新世界史図表 二訂版 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ◇近現代の歴史は社会科の他の科目の内容と密接に結びついています。授業で学んだ歴史的事象を、日本史と連動させて考えたり、地理的にとらえ直すよう、常に心がけること。そのために、ワークシートや小論文などの課題にも積極的に取り組むことが重要である。
- ◇現代社会の出来事について歴史的背景を踏まえて考察し、自らの意見や考えを持ち、発信できる力を身につけてほしい。ミニポスターを用いた発表等の機会を大いに活用すること。

2 学習の到達目標

- ◇諸資料に基づいて世界の歴史を理解し、現代社会の諸事象に対する思考力を培う。
- ◇日本史との関連性を意識しながら近現代史を深く理解し、国際社会に生きる日本国民に必要な資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、論理的に追究する意欲を持つ。また、国際社会で責任を持って行動できる、日本国民としての資質を形成している。	世界史を学びながら日本史的・地理的事象との関連性を含めて多面的に考察し、現代社会の変化を公正に判断して、歴史的経過・結果や自らの意見を適切に表現できている。	与えられた教材の中の史料や、自らの探究活動で得られた諸資料をもとに、有用な情報を選択し、適切に解釈して、小論文やミニポスターの作成にうまく生かしている。	各歴史的世界の生活・文化の特色を踏まえながら、近現代史の基本的な事象と歴史的な因果関係を十分に理解している。また、地理的・日本史的事象との関連も意識している。
評 価 方 法	レポート 主題学習においては小論文の作成	定期考査 ワークシート 主題学習においては小論文の作成	定期考査 ミニポスター 主題学習においては小論文の作成	定期考査 ワークシート 主題学習においては小論文の作成
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期Ⅰ	世界の一体化と日本	＊世界史と風土 ＊ユーラシア諸文明の特質 ＊ユーラシアの交流 ＊ヨーロッパの対外進出 ＊アジアの繁栄と世界経済	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: 近現代世界を理解する前提として、ユーラシア諸文明や世界の一体化の過程に関心を持っている。 b: 学習内容を多面的に考察し、歴史的経過や因果関係を適切に表現できている。 c: 必要な諸資料を収集し、取捨選択して、与えられた主題に適した年表・図・文章などをまとめることができている。 d: 学習内容を日本史的・地理的事象と関連付け、世界の歴史に対する理解を深めている。	定期考査 ワークシート レポート
前期Ⅱ	世界の一体化と日本	＊産業革命と工業化 ＊アメリカ独立とフランス革命 ＊ウィーン体制とナショナリズム	○	○	○	○ ○ ○	a: 資本主義や国民国家の形成について、意欲的に考察している。 b: 同上 c: 同上 d: 同上	定期考査 ワークシート ミニポスター
前期Ⅲ	世界の一体化と日本	＊アジア・アフリカ・南米の変動 ＊東アジアの変容と日本 ＊帝国主義の到来	○	○	○	○ ○ ○	a: 植民地化とそれに対する抵抗運動などについて、強い関心を持っている。 b: 同上 c: 同上 d: 同上	定期考査 ワークシート
後期Ⅰ	地球社会と日本	＊第一次大戦とロシア革命 ＊戦間期の欧米諸国 ＊民族運動の高まり	○	○	○	○ ○	a: 世界大戦の総力戦としての性格や、大戦が世界および日本に与えた影響について、意欲的に考察している。 b: 同上 c: 同上 d: 同上	定期考査 ワークシート レポート
後期Ⅱ	地球社会と日本	＊ファシズムと第二次大戦 ＊冷戦と第三世界 ＊統合と混迷の現代世界 ＊主題学習「持続可能な世界を実現する統合のあり方」「現代世界の混迷の要因」	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○	a: 戦後史の理解を深めながら、持続可能な世界の構築に向けた自主的な考察を深めている。 b: 同上 c: 同上 d: 世界の動向と日本のかかわりに着目しながら、これからの日本社会に必要な知識を獲得している。	定期考査 小論文

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用 of 技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史 A	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	日本史 A (山川出版社)						
副教材等	新詳日本史 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- (1) 同じ 2 年生で学習する世界史 (近現代中心) の内容を踏まえ、国際環境と日本史を関連づけて考察すること。
- (2) 重要史料の解説を通じて日本史に対する認識や知識を深めてみよう。
- (3) 教科書・副教材に掲載されている豊富な写真などの図版を積極的に活用しよう。特に文化財関係の写真を通じて日本の文化と伝統を学び、文化財保護の重要性を認識すること。

2 学習の到達目標

近現代を中心とする日本史の展開を、世界史的視野に立って考察させ、歴史的思考力を培い、民主的で平和的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と、国際社会に主体的に対応していくことのできる資質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などに関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などに関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	①レポート提出 ②授業観察 (授業への積極的参加、発問への回答等)	①定期考査 (前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計 4 回実施) ②レポート提出 (ワークシート、長期休暇宿題レポート等)	①定期考査 (前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計 4 回実施) ②授業観察 (授業内での積極的な史料活用、発問への回答等)	①定期考査 (前期第二中間考査・前期末考査・後期中間考査・学年末考査の計 4 回実施) ②授業観察 (授業への積極的参加、発問への回答等)
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	序章 揺と近代への胎動 近世社会の動	開国以前の江戸時代後半の動向を理解する。	○				a: 江戸時代後期の国内動揺と世界の変容の過程に対する関心と課題意識を高め、多様な学習方法を通じて意欲的に追究している。	前期第二中間考査、前期末考査の2回の考査。
	第1章 開国と明治維新	①開国から江戸幕府の滅亡に至る過程を国際環境と関連させて考察・理解する。 ②明治政府が、欧米列強と対等の地位を獲得するために諸制度の改革を推進して、近代化を図った経緯を理解する。			○	○	c: 開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用している。 d: 明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程についての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	
	第2章 立憲国家の成立	①専制政治を強める明治政府に対抗して自由民権運動が高揚したこと、政府が憲法や議会制度を整備する経緯を考察・理解する。 ②明治政府が進めた条約改正、さらに日清・日露戦争・韓国併合などを国際的な視野に立って考察・理解する。 ③産業革命を通じて日本の近代産業・資本主義が確立したこと、様々な問題が発生したことを理解する。 ④明治時代、伝統文化の上に欧米文化を取り入れた近代文化が成立したことを具体例について考え、理解する。		○		○	b: 我が国の対外政策の推移と近代産業の成立から課題を見だし、条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。 d: 我が国の対外政策の推移と近代産業の成立についての基本的な事柄を条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	レポート提出。

後期	第3章 第一次世界大戦と日本	①第一次世界大戦が日本にどのような影響を与え、日本がどのように対応したかを考察する。 ②この時期に、政党政治・デモクラシーの風潮が高揚したことを、具体例を考え、理解する。 ③大正時代、大衆文化が発展したことを理解する。	○				a: 政党政治の推移と大衆文化の形成に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 近代産業の発展とそれが国民生活にもたらした影響から課題を見だし、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生と関連付けて多面的・多角的に考察している。	後期中間 考査、学年 末考査の 2回の考 査。
	恐慌と満州事変 第4章 昭和の	大戦後の恐慌、関東大震災、金融恐慌、世界恐慌などの経済の動向、国際関係の変化、軍部の台頭による政治状況の変化について考察する。				○	d: 日本の立場と国際関係などを関連付けて、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化についての基本的な事柄理解し、その知識を身に付けている。	
	世界大戦と日本 第5章 第二次	満州事変から太平洋戦争に至る経過、戦争が日本国民のほか諸国の人々に多大な損害を与えたことを理解する。	○				a: 二・二六事件や日中戦争などの内外情勢の変化に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	
	下の日本 第6章 占領	終戦後の占領下の民主化政策、サンフランシスコ平和条約の締結と独立などの日本の戦後復興の経過を理解する。				○	d: 占領政策と諸改革、平和条約と独立などの基本的事柄を当時の国際関係の推移と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
	と保守長期政権 第7章 経済繁栄	国際社会への復帰、経済復興と高度経済成長について現代の事象と関連付けながら、考察する。				○	c: 戦後の経済復興、技術革新と高度成長など日本経済の発展と国民生活の向上に関するグラフなどの諸資料から考察した過程や結果を適切に表現している。	レポート 提出。
	の世界と日本 第8章 現代	冷戦終結・平成不況など、世界の動向と関連づけてこれからの日本のあり方を考える。		○			b: 我が国の国際貢献の拡大などと関連付けて、日本の課題及び役割を認識するとともに社会の変化を踏まえ公正に判断している。	

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理 A	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	「高等学校 新地理 A」(帝国書院),「現代地図」(二宮書店)						
副教材等	「最新地理図表 GEO」(第 1 学習社),「2019 データブックオブザワールド」(二宮書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

地理とは地球上の数多くの「事象」を推理し理論的に解明していく学問である。以下にその主眼となる事項を記す。

- ・必要最小限の知識力を身に付ける。授業中に絶対覚えるようと言われた箇所は必ず暗記しておくことである。
- ・理解力を身に付ける。例えば気候の問題であれば「雨が少ないところ」ではなく「そこはなぜ雨が少ないのか」を理解できるようになることである。
- ・読み取る力を身に付ける。例えば人口統計の問題であれば「出生率や都市人口率が低い国はどこか」ではなく「発展途上国と先進国では出生率や都市人口率にどのような傾向があるか」を読み取れるようになることである。

2 学習の到達目標

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景,日常生活との関連を踏まえて考察し,現代世界の地理的認識を養うとともに,地理的な見方や考え方を培い,国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用 of 技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め,それを意欲的に追究し,国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし,それを地域性や歴史的背景,日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し,国際社会の変化を踏まえて公正に判断して,その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計,画像など地域に関する諸資料を収集し,有用な情報を選択して,読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し,その知識を身に付けている。
評 価 方 法	授業での観察 発表 ノート	定期考査 (記述問題) ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 確認テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期Ⅰ	現代世界の特色と諸課題の地理的考察Ⅰ	・地球儀や地図からとらえる現代世界	○	○	○	○	a: 学習内容に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 b: 学習内容について、各時代の世界観や地図の有用性などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 学習内容に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 学習内容について、各時代の世界観や地図の有用性などを理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 授業での 観察
前期Ⅱ～後期Ⅰ	現代世界の特色と諸課題の地理的考察Ⅱ	・世界の生活・文化の多様性	○	○	○	○	a: 学習内容および学習内容に関する諸事情の分布や動向、人間生活との関わり、民族と国家の関係および現代世界の諸地域にみられる地域的特色などに関する考察を基に、学習内容に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 b: 学習内容について、分布や動向、人間生活との関わり、民族と国家の関係および現代世界の諸地域にみられる地域的特色を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	定期考査 確認テスト 授業での 観察 ノート

							c:学習内容に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択して, 読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:学習内容について, 分布や動向, 人間生活との関わり, 民族と国家の関係および現代世界の諸地域にみられる地域的特色を多面的・多角的に捉える視点や考察方法を理解し, その知識を身に付けている。	
後期Ⅱ	現代世界の特色と諸課題の地理的考察Ⅲ	・地球的課題の地理的考察	○	○	○	○	a:学習内容に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究し, 捉えようとしている。 b:環境, 資源・エネルギー, 食料, 人口, 居住・都市, 民族, 領土などの問題を大観させ, その過程や結果を適切に表現している。 c:学習内容に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択して, 読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:環境, 資源・エネルギー, 食料, 人口, 居住・都市, 民族, 領土などの問題や, 多面的・多角的に捉える視点や考察方法を理解し, その知識を身に付けている。	定期考查 確認テスト 授業での 観察 ノート
後期Ⅲ	生活圏の諸課題の地理的考察	・日常生活と結びついた地図 ・自然環境と防災 ・生活圏の地理的な諸課題と地域調査	○	○	○	○	a:学習内容に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究し, 捉えようとしている。	定期考查 確認テスト 授業での 観察 発表 ワークシート

							b：生活圏の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景，日常生活との関連を踏まえて、また我が国の自然災害を自然環境の特色との関連を踏まえて、多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 c：学習内容に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d：生活圏の地理的な諸課題や我が国の自然災害や，多面的・多角的に捉える視点や考察方法を理解し，その知識を身に付けている。	
--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 表中の観点について a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現
c：資料活用の技能 d：知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	地学基礎（改訂版） 啓林館						
副教材等	リードα 地学基礎・啓林館 スクエア最新図説地学・第一学習社						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

地学基礎は、地球の中心から宇宙の果てまでを扱う科目です。2 年生では地質・気象について学びます。距離・時間共に微視的な視点から巨視的な視点まで幅広くとらえる必要があります。単なる暗記だけではなく、前後の流れをつかみながら学習してください。

授業のプリントを自分なりにノートにまとめることも有効です。授業で習った内容を自ら積極的にまとめ、表現することで知識の整理や思考力、情報処理能力の向上にも役立つはず。1 年生の時に習った物理・化学・生物の内容も時折見直すと自然界のつながりがより深く理解できます。より発展的な内容も扱いますので、単なる暗記教科として捉えないようにしてください。

2 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	規律ある授業態度で受講し、授業中の指示などを正しく聞いている。 授業中の指示に対して的確に応える。 指示された事項に終始せず、積極的な授業態度で学習に臨む。	学習内容を踏まえた文章を書く。 単語の羅列や暗記事項の再生ではなく、工夫ある思考を行っている。 図や表を適切に利用した表現ができる。 他者の発表に正しい評価を行える。	目的を理解し、手順を守った実習を安全・確実に行っている。 単独行動のみならず、グループワークなどを重視して観察・実験に取り組んでいる。	科目の内容を正しく理解し、記述することができる。 設問などの意図を読み取り、適切に応えることができる。 日常生活に学習内容を当てはめることができる。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートの記述 発表、発言	学習状況の観察 ノートの記述 探究活動の記録、発表 定期考査の結果	観察・実験の記録 ワークシートの記述	学習状況の観察 定期考査の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
中 前 期 第一	固体地球とその変動	地球の概観			○		a:地球の形や活動に興味を持つ。 探究活動に取り組む。 b:原理を理解している。 c:全周を測る実習や密度測定等の結果をまとめる。 d:問題演習に取り組む。	授 業 中 の 態 度、 レポ ー ト、 探 究 活 動 な の の 成 果、 定 期 考 査 の 結 果
		地球の内部構造			○			
		プレートテクトニクスと地球の活動	○					
		地震		○				
		火山活動と火成岩の形成			○			
前 期 期 末	移り変わる地球	堆積岩とその形成			○		a:岩石と歴史に興味を持つ。 b:歴史と岩石の相関を理解。 c:岩石・化石の違いを観察。 d:問題演習に取り組む。	授 業 中 の 態 度、 レポ ー ト、 探 究 活 動 な の の 成 果、 定 期 考 査 の 結 果
		地層と地質構造	○					
		地球の歴史の区分と化石		○				
		先カンブリア時代	○					
		顕生代	○					
後 期 中 間	大気と海洋	大気圏	○				a:大気の構造と気象現象について関心を持つ。 b:天気、季節の変化の原因を理解できる。 c:太陽定数の測定、天気図の作図等に取り組む。 d:問題演習に取り組む。	授 業 中 の 態 度、 レポ ー ト、 探 究 活 動 な の の 成 果、 定 期 考 査 の 結 果
		水と気象	○					
		地球のエネルギー収支			○			
		大気の大循環	○					
		海水の循環						
後 期 学 年 末	大気と海洋	日本の位置		○				
		冬から春の天気			○			
		夏から秋の天気			○			

※表中の観点について a:関心・意欲・態度、b:思考・判断・表現、c:観察・実験の技能、d:知識・理解

※年間指導計画(例)作成上の留意点

原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成 31 年度 保健体育科

教科	保健体育	科目	体育（男子）	単位数	3 単位	年次	2 年次
使用教科書	「最新高等保健体育 改訂版」（大修館書店）						
副教材等	「アクティブスポーツ」（大修館書店）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自己の能力に応じて体力の向上を図り、その過程において体験する運動の楽しさを学ぶこと。
また、チームスポーツを通じて協力、責任、リーダーシップ、対戦相手への敬意といった集団行動の資質を磨くこと。

2 学習の到達目標

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を培う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断	c:運動の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	・自己の体力、技能を向上させる積極的な姿勢を身につける ・円滑な集団での運動実施のために必要となる協力的態度を身につける	・個々に応じた体力や技能を高めるためのトレーニングや練習を選択する力を身につける ・ゲーム場面での適切なプレーの選択、自己の役割を判断する ・集団の中での発言、リーダーシップ	・各運動技能を身につける ・身につけた運動を速く、正確に、力強く発揮する ・ゲームの場面において身につけた運動を発揮する	・スポーツのルールや、運動を安全に実施する方法を理解する ・自己の体力や技能を高める方法を理解する
評 価 方 法	・出席の記録 ・積極的姿勢を記録 ・協力的姿勢を記録	・技能や記録を伸ばすための工夫を記録 ・練習方法の観察及び記録 ・ゲームパフォーマンス（プレーの選択、周囲への声かけ、作戦など）の記録	・スキルテストやタイム計測などの記録 ・ゲームパフォーマンス（得点など）の記録	・各種目での準備や片付けを観察及び記録 ・ゲームや記録測定を観察及び記録 ・準備運動、整理運動、補強運動の観察及び記録
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

月	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	・バスケット ボール ・陸上競技	基本技術 パス、ドリブル シュート 対人練習 ゲーム	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: プレー選択、チーム協力 c: スキルテスト d: ルール理解	出席等記録 スキルテスト ゲーム
5	・体づくり運動	円盤投げ 走り高跳び	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: 練習方法の選択 c: 記録会 d: 安全な実施方法の理解	出席等記録 記録計測 記録会
6	・体育理論	縄跳び (前後2重跳び)	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: 独自の工夫 c: 記録測定 d: 仕組みの理解	出席等記録 回数記録
		体力トレーニング の意義と方法、 体力向上の理解	○	○		○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: 自己に適した方法を理解 c: 補強運動を実施 d: 内容の理解	出席等記録 トレーニング 実施
	・水泳	4泳法 (バタフライ・背泳・ 平泳ぎ・クロール) 4泳法のメドレー	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: 自己の体力と各泳法の技能 を考えた工夫 c: 記録会 d: ルールと泳ぎの理解	出席等記録 記録測定
7								
9								
	体育大会練習	体育大会準備 開会式、閉会式の 練習、出場種目練 習	○				a: 参加意欲、取り組み態度 b: 隊形変更等、クラス行進 c: ラジオ体操第二、クラス行進 d: 種目練習	出席等記録
10								
	・ハンドボール	基本技術 パス、シュート コンビネーション 対人練習 ゲーム	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: プレー選択、チーム協力 c: スキルテスト d: ルール理解	出席等記録 スキルテスト ゲーム
	・ラグビー							
11		基本技術 ランニング ハンドリング キッキング 対人練習 ゲーム	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度 b: プレー選択、チーム協力 c: スキルテスト d: ルール理解	出席等記録 スキルテスト ゲーム
12								
1	・持久走	30分間走	○		○		a: 参加意欲、取り組み態度	出席等記録

2		ファルトレク走 タイム計測					b:走行時間、距離に見合ったペース・走り方の選択 c:タイム計測 d:長距離走の走り方の理解 長距離走の目的の理解	タイム計測
---	--	------------------	--	--	--	--	--	-------

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断
c:運動の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 保健体育科

教科	保健体育	科目	体育（女子）	単位数	3 単位	年次	2 年次
使用教科書	「最新高等保健体育 改訂版」（大修館書店）						
副教材等	「アクティブスポーツ」（大修館書店）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自己の能力に応じて体力の向上を図り、その過程において体験する運動の楽しさを学ぶこと。
また、チームスポーツを通じて協力、責任、リーダーシップ、対戦相手への敬意といった集団行動の資質を磨くこと。

2 学習の到達目標

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を培う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断	c:運動の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	・自己の体力、技能を向上させる積極的な姿勢を身につける ・円滑な集団での運動実施のために必要となる協力的態度を身につける	・個々に応じた体力や技能を高めるためのトレーニングや練習を選択する力を身につける ・ゲーム場面での適切なプレーの選択、自己の役割を判断する ・集団の中での発言、リーダーシップ	・各運動技能を身につける ・身につけた運動を速く、正確に、力強く発揮する ・ゲームの場面において身につけた運動を発揮する	・スポーツのルールや、運動を安全に実施する方法を理解する ・自己の体力や技能を高める方法を理解する
評 価 方 法	・出席の記録 ・積極的姿勢を記録 ・協力的姿勢を記録	・技能や記録を伸ばすための工夫を記録 ・練習方法の観察及び記録 ・ゲームパフォーマンス（プレーの選択、周囲への声かけ、作戦など）の記録	・スキルテストやタイム計測などの記録 ・ゲームパフォーマンス（得点など）の記録	・各種目での準備や片付けを観察及び記録 ・ゲームや記録測定を観察及び記録 ・準備運動、整理運動、補強運動の観察及び記録
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

月	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	・ハンドボール	基本技術 シュート、パス ディフェンス 対人練習 ゲーム	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: プレー選択、チーム協力 c: スキルテスト d: ルール理解	出席等記録 スキルテスト ゲーム
5	・陸上競技	走り高跳び	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: 練習方法の選択 c: 記録会 d: 安全な実施方法の理解	出席等記録 記録計測
	・ダンス	創作ダンス	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: 集団でのリーダーシップ c: 中間発表会 d: 技能の高め方の理解	出席等記録 発表観察
6	・体づくり運動	縄跳び (前後2重跳び)	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: 独自の工夫 c: 記録測定 d: 仕組みの理解	出席等記録 回数記録
	・体育理論	体力トレーニング の意義と方法、 体力向上の理解	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: 自己に適した方法を理解 c: 補強運動を実施 d: 内容の理解	出席等記録 トレーニング 実施
	・水泳	4泳法 (バタフライ・背泳・ 平泳ぎ・クロール)	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: 自己の体力と各泳法の技能 を考えた工夫 c: 記録会 d: ルールと泳ぎの理解	出席等記録 記録測定
	7							
	9	4泳法のメドレー						
		体育大会練習	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: 隊形変更等、クラス行進 c: ラジオ体操第二、クラス行進 d: 種目練習	出席等記録
10								
	・バスケット ボール ・ダンス	基本技術 パス、ドリブル シュート、ピボット 対人練習 ゲーム	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: プレー選択、チーム協力 c: スキルテスト d: ルール理解	出席等記録 スキルテスト ゲーム
11		創作ダンス	○	○	○	○	a: 参加意欲、取り組み態度 b: 集団でのリーダーシップ	出席等記録 発表観察

12							c:発表会 d:技能の高め方の理解	
1	・持久走	30 分間走 ファルトレク走 タイム計測	○	○	○	○	a:参加意欲、取り組み態度 b:走行時間、距離に見合ったペース・走り方の選択 c:タイム計測 d:長距離走の走り方の理解 長距離走の目的の理解	出席等記録 タイム計測
2								

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断
c:運動の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成31年度 保健体育科

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1 単位	年次	2 年次
使用教科書	「最新高等保健体育 改訂版」(大修館書店)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

本校の保健の授業では、教科書と担当者ごとのプリントを使用し授業を進める。
2年次は「生涯を通じる健康」と「社会生活と健康」の単元を学習する。また、「現代社会と健康」の心肺蘇生法を実習する。
生涯の各段階における健康、環境と健康など、将来の豊かな社会生活に役立つ知識と習慣を身に付ける。

2 学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断	c:運動の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践する為、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉える事により、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。	心肺蘇生法を実践出来る。	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	授業姿勢の観察 プリント点検等	討論 感想プリント点検等	実習観察	考査等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	生涯を通じる健康	人生の各段階の健康 思春期の心と成長 思春期のからだの成長 結婚生活と健康 新しい生命の誕生 幸せで健康な家庭づくり 等	○	○		○	a:プリントへの記入 授業の取り組み b:適切な意思決定・行動選択 d:生涯を通じる健康の理解	・出席等 ・プリント ・試験実施
後期①	社会生活と健康	環境と健康 大気と健康 水と健康 土と健康 産業廃棄物と汚染物質 地球環境と健康 等	○			○	a:プリントへの記入、授業の取 り組み b:適切な意思決定・行動選択 d:社会生活と健康の理解	・出席等 ・プリント ・試験実施
後期②	現代社会と健康		○		○	○	a:プリントへの記入、授業の取 り組み b:心肺蘇生法を状況に応じて 実施できる c:心肺蘇生法の修得 d:心肺蘇生法の理解	・出席等 ・プリント ・実技評価 ・試験実施

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断
c:運動の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成31年度 芸術〔音楽〕

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	1 単位	年次	2 年次
使用教科書	「MOUSA 1」 (出版)						
副教材等	「ほらね、」 (カワイ出版)、ワークシート等のプリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・「歌唱」「鑑賞」の2つの分野を1年次に引き続き学習する。
- ・学習の到達度は、授業で配付するワークシートや実技テストで評価する。
- ・音楽の授業で大切なことは、知識や技能を習得、音楽的な感受や知覚によるものを自らにインプットし、それらについて思考や判断を重ね、他者との協働でさらに深め発展させ、最終的に表現としてアウトプットすることである。それは人間の品位や人格、物事に対する理解力や創造性に結びついている、言わば人間として持つべき基礎的教養を身につけることに繋がる。

2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a: 音楽への関心・意欲・態度	b: 音楽表現の創意工夫	c: 音楽表現の技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	観察 ワークシート	観察 ワークシート	演奏の聴取 提出作品	観察 ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。				

4 学習の活動

学 期	題 材 名	学 習 内 容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	豊かな声で歌いあげよう！	【歌唱】 校歌	○	○	○		a: 歌う喜びを味わい、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように歌うか、表現意図をもっている。 c: 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	ハーモニーの美しさや言葉の響きを感じ取って歌おう	【歌唱】 わらべうた ほらね、 (混声4部)	○	○	○		a: 曲想と文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 旋律、リズム、速度など音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、曲種に応じた発声の特徴を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c: 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	旋律の美しさや言葉の響きを感じ取って歌おう	【歌唱】 一日の終わりに 宿屋の主人の歌 民衆の歌 ワンデイモア エピローグ	○	○	○		a: 曲想と文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 旋律、リズム、速度など音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、曲種に応じた発声の特徴を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c: 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	歴史的な名作を味わおう	【鑑賞】 記念 コンサート レ・ミゼラブル	○			○	a: 歴史的背景や情景、登場人物の性格を想像し、それらと歌唱表現やオーケストラとの関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 d: 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、総合芸術としてのよさや美しさを味わっている。	観察 ワークシート

後期	旋律の美しさや言葉の響きを感じ取って歌おう	【歌唱】 一日の終わりに 宿屋の主人の歌 民衆の歌 ワンデイモア エピソード	○	○	○		a:曲想と文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b:旋律、リズム、速度など音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、曲種に応じた発声の特徴を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	世界の民族音楽を味わおう	【鑑賞】 リバーダンス	○			○	a:歴史的背景や情景を想像し、それらと音楽表現や身体表現との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 d:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、ケルト音楽のよさや美しさを味わっている。	観察 ワークシート

※ 表中の観点について a:音楽への関心・意欲・態度 b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能 d:鑑賞の能力

※ 原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の3観点で、「鑑賞」の分野は a, d の2観点で評価をする。

※ 年間を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	1 単位	年次	2 年次
使用教科書	「高校生の美術 1」 (日本文教出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」など、美術はいろんな形でわたしたちの周りにあります。こういったものを、表現としてとらえ、日常の中で興味・関心を持って見るようにしましょう。発想や表現方法のたくさん入った引き出しを持つことが、みんなの美術の力になります。

美術は造形による表現です。「表現したいもの」とそれを表す「形」が必要です。自分なりの感じ方や見方、表現を自分で取り出せるよう、自らへの理解を深めて行きましょう。そして、表現するために効果的な造形の技能、基礎知識への理解も深めて行きましょう。授業では、ふたつのバランスを取りながら、頭で考えすぎず、手を動かして、感じながら、取り組みましょう。

2 学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観 点	a:美術への 関心・意欲・態度	b:発想・構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現方法の特徴や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	制作の様子 作品	制作の様子 ワークシート 制作途中の作品 作品	制作の様子 制作途中の作品 作品	鑑賞の様子 鑑賞レポート 交流用紙

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	オリエンテーション	・年間計画のガイダンス 【表現】【絵画・彫刻】 ・人物クロッキー 生徒相互がモデルになってクロッキーをする。人物の骨格、重心、バランス、動勢などに注意する。毎授業開始時に行う		○	○		b:対象を見つめて、形体の特徴をつかみ、画面への入れ方などを工夫している。 c:クロッキーの目的を理解し、鉛筆の特性を生かして表現している。	学習活動の様子 制作の様子 作品
	版の表現	【表現】【絵画・彫刻】 ・多色刷木版画 木版画ならではの表現と味わいに関心をもち、単純化した図案と色彩の効果などを生かしてあらわす ・図案をつくる ・複数の版木に図案の必要な部分をそれぞれ転写し、彫刻刀で彫る ・1版目から順番に刷り重ねていく	○	○	○		a:木版画制作に関心をもち、材料や用具の活用に積極的に取り組んでいる。 b:感性豊かに、図案の単純化、配色、色面分割ができる。 c:木版画の彫り、刷りの特性を理解し、表現効果を考えて生かす。	制作の様子 制作中の作品 作品
	鑑賞	【鑑賞】【絵画・彫刻】 ・浮世絵師 葛飾北斎について映像を鑑賞する ・作家の人生、時代背景、美意識、表現方法の特徴などについて知る ・浮世絵版画の表現や魅力、作品の背景について知る	○			○	a: 作家の人生や、表現方法の特徴などに関心をもち、美意識や美を求める意欲を感じ取ろうとする。 d: 作家の表現の特質を味わい、自己の意見を述べることができる。	鑑賞の様子 鑑賞レポート

後 期	WOODY CHAIN MINI	【彫刻】 角材から輪の連なった鎖を彫り出す ・丸彫りの制作工程を学ぶ ・木彫技法を学ぶ ・デザインを三面図におこす ・鋸、糸鋸バ、彫刻刀による成形後、木工ヤスリ、サンドペーパーで研磨、木工ワックス塗装仕上げ	○ ○ ○ ○	○	○	○	a: モチーフの特徴を表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b: 表現形式の特性を生かし、形体を工夫して表現の構想を練っている。 c: 素材、用具の特性を生かし、表現方法を工夫して表現している。 d: よさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り、作品について理解を深めている。	制作の様子 図面 制作中の作品 作品
	文芸祭	【鑑賞】 12月校内展示を行う。 原則として、全員前期課題を展示する。 ・相互鑑賞	○			○	a: 作者の意図や表現の工夫などに関心を持ち、その人独自のものとして尊重している。 d: 表現のよさや効果的な工夫を感じ取り、それに対して自己の意見を述べることができる。	鑑賞の様子 交流用紙

※ 表中の観点について a: 美術への関心・意欲・態度 b: 発想や構想の能力
c: 創造的な技能 d: 鑑賞の能力

※ 年間指導計画作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 授業時間数や担当者の都合により、実施順序や内容に変更がある場合がある。

平成31年度 芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	1 単位	年次	2 年次
使用教科書	「書 I」 （光村図書）						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

漢字の書で学習した内容を踏まえつつ、仮名文字を通して、より幅広い文字表現を学びます。
 一年次と比較すると仮名・篆刻ともに作品サイズが小さくなるため、さらに集中力を高め、細やかな観察眼・表現力を磨いてほしい。古典を通して文字表現の多様性を学ぶことで先人が築き上げてきた文化を実感し、現代における書表現について考えましょう。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
 古典を通して書のさまざまな美について学び、書風を理解し制作することができる。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	a:書への関心・意欲・ 態度	b:書表現の構想と工 夫	c:創造的な書表現の 技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を活かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 5月 6月	漢字の書	古典臨書 楷書	○	○			古典の臨書をととして、文字の表情（表現上の特徴）を多角的に理解する。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
7月 8月	漢字の書	古典臨書 行・草書	○	○			筆の弾力を最大限に生かし、運筆の方法により筆画の表情が出ることを理解し応用する。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
9月 10月	漢字の書	古典臨書 篆・隸書		○		○	古典の様々な技法とその現れた時代の特色を鑑み、理解した上での自分の臨書表現を模索する。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
11月 12月	作品制作	作品制作 表具			○	○	a:他者の作品を鑑賞し、それぞれの表現意図に迫ることで書表現の幅広さや自己を表現することの意味を創造的に味わうことができる。 b:基礎的な技術をもとに、自身の感性に適した書法や文字造形を工夫する。 c:自身の作品について、選文した理由や制作意図等を客観的に説明することができる。 d:線質、字形、紙面構成の工夫など創作における効果的な表現を理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
1月 2月 3月	作品制作	・自由課題による作品制作 ・仮名			○	○	様々な表現方法に触れ、鑑賞力を深めると共に愛好する心情を育てる。 古筆の臨書を通して、仮名の理解と鑑賞能力を育てる。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※ 表中の観点について a:書への関心・意欲・態度

b:書表現の構想と工夫

c:創造的な書表現の技能

d:鑑賞の能力

- ※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	家庭総合 自立 共生 創造 (東京書籍)						
副教材等	2018 生活学Navi (実教出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

家庭科は、自分を大切にする力 (自立)、他者と共に生きる力 (共生) を互いに育てあう教科です。これから社会生活を送る上で必要な知識技術を、自ら生活する者の立場で学び、自分らしい生活を創造していく力を身につけましょう。

- ・自分の人生や生活上の課題を、ワークや演習等を通して考え、理解を深め知識を身につけると共に、考察をまとめ、発信できるようにしましょう。また、他者の考察を知り、多様な考え方を学び、尊重すると共に、自分の考えを深めましょう。
- ・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身につけ、周囲の人を助け、リーダーとなることができる能力を身につけます。
- ・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活を目指しましょう。

2 学習の到達目標

人の一生と家族・家庭、子供や高齢者とのかわわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実を図る能力と実践的な態度を育てる。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 プリントやワークシートの記述 レポート 実習記録、 調理計画、製作計画、 発表 自己評価 等	学習状況の観察 プリントやワークシートの記述 レポート 実習記録、 調理計画、製作計画、 発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価 等	学習状況の観察 プリントやワークシートの記述 レポート 実習記録、 製作作品、写真 発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価 等	学習状況の観察 プリントやワークシートの記述 レポート 実習記録、 調理計画、製作計画、 発表 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 4 5 6 月	衣生活をつくる	○家庭科の学び方 ○被服の役割と機能を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、平面構成と立体構成の違いを学ぶ。 ○被服製作の基本的事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ＊エプロン製作実習 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a: 衣生活・文化に関心を持ち、人間と被服、気候と被服のかかわりを考え、被服材料、被服構成、縫製技術に関心を持ち、被服製作に取り組もうとしている。 b: 衣服の役割、被服材料、被服管理、適切な着装について考えを深めている。 c: 調理実習で使用するエプロンについて、着装、被服材料、管理、性能、安全に配慮した被服計画を立て、被服製作ができる。 d: 着装、被服材料、被服構成、被服製作、被服管理などについて科学的に理解し、持続可能な衣生活の必要性を理解している。	授業観察 プリント ワークシート 製作計画 実習記録 レポート 製作作品 写真 定期考査

6 7 月	食生活をつくる	○食べることとはどういうことか知る。 ○消化管の働きを知る。 ○世界の食文化から人間は何を食べてきたかを知る。 *人間は何を食べてきたか ○ヒトの食性、食文化について学び、日本の風土の豊かさや食物との関係を知る。 *調理実習 5 回 (6月～2月)	○	○		○	a: 自分の体、食生活に関心を持ち、日本の風土と食物の関係を考え、食生活の問題点を考えようとしている。 ・調理実習では、科学的な視点を持ち、総合力を養うため、積極的に取り組もうとしている。 b: 現代の食生活と食事の意義について思考を深め、栄養と健康な食生活のかかわりについて考えている。 ・食品成分表を活用して、調理実習の栄養点検を行い、食事摂取基準との比較や使用した食品について、調査してまとめたり、発表している。 c: 主体的に食生活を営むために必要な情報を収集・整理し、検討することができる。 ・食生活をよりよくするための調理に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、食品成分表を活用して、栄養計算をすることができる。 d: 現代の食生活の課題、日本の風土との関係を理解し、栄養、食品、調理及び食品衛生など、食事と健康とのかかわりについて、科学的に理解している。 ・調理実習を通して、食生活の自立に必要な知識を身につけている。	授業観察 プリント ワークシート 調理計画 実習記録 レポート 発表 定期考査
-------------	---------	--	---	---	--	---	--	---

8 9 月		○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 *自由テーマ 調査研究、個人発表	○	○	○	○	a: ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。 b: 生活上の課題を見出し、その解決を目指して科学的に探究し、表現している。 c: 計画に沿ってホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を実践することができる。 d: ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の実践に必要な知識を身に付けている。	レポート 発表 自己評価 相互評価
		前期末考査		○	○	○		定期考査

後期 10 11 12 1月	食生活をつくる	○日本の風土で生きるために生み出した食物と文化・知恵を知り、伝承について考える。	○	○		○	a: 先人の知恵・文化に関心を持ち、食生活と健康の関わりを考え、意欲的に食生活の改善・向上に努めようとしている。	授業観察 プリント ワークシート 調理計画 実習記録 レポート 発表 定期考査
		*里山で継承されている文化を学ぶ	○	○	○	○	・食生活点検や食品成分表を活用して栄養計算し、食生活の問題点を考えようとしている。	
		○近年の食生活の歴史と現代人の食の問題を知り、自分の食生活を振り返る。	○	○		○	・調理実習では、科学的な視点を持ち、総合力を養うため、積極的に取り組もうとしている。	
		○食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。	○			○	b: 近年の食生活の歴史や食品をめぐる事例から、健康や日本の農業、食生活の安全性や環境について思考を深めている。	
		○日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。	○	○		○	・食品成分表を活用して、献立の栄養点検を行い、食事摂取基準と比較し、食生活の改善に向けて課題を調査してまとめたり、発表している。	
		○日本人の食事摂取基準や食事バランスガイドを知り、自分や家族に当てはめる。	○			○	c: 食生活をよりよくするための調理に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、食品成分表を活用して、栄養計算をすることができる。	
		*食生活点検					d: 現代の食生活の課題、食文化、食品の安全性と環境についての課題を認識し、その知識を身につけている。	
		○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。	○	○	○	○	・栄養、食品、調理及び食品衛生など、食事と健康とのかかわりについて、科学的に理解している。	
		○食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。	○	○	○	○	・調理実習を通して、食生活の自立に必要な知識を身につけている。	
		○生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる	○	○	○	○		

2月	住生活をつくる	○バリアフリーの考え方を理解し、身につける。 ○気候風土に応じたさまざまな住様式が存在することを学ぶ。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。	○	○		○	a:安全で快適な住生活や住まい方について考えようとしている。 b: 近年の安全な住環境の課題について考えを深め、まとめている。 c: よりよい居住環境を整備するために必要な平面図を読み取り、家族構成やライフステージ、生活価値観に応じた住空間の計画ができる。 d: 住居の機能、住空間の計画、住環境など、安全で快適な住まいについて科学的に理解している。	授業観察 プリント ワークシート 定期考査
3月	生活を設計する	○今までの学習を踏まえ、キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめる。 ○自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。	○	○		○	a: 生涯を見通した自己の生活設計について関心をもち、自己のライフスタイルや生活資源の活用の観点から、将来の生活設計について考えようとしている。 b: 資源を有効活用した生活設計について考え、工夫したり、自己実現を目指して、生活設計を考え、まとめている。 c: 生活設計の立案に必要な情報を収集・整理し、検討を行い、具体的な生活設計を立てることができる。 d: 充実した人生を送るために、生涯を見通した生活設計の必要性を理解し、生活設計の意義や生活設計に必要な要素など、生活設計を行うために必要な知識を身につけている。	授業観察 プリント ワークシート 定期考査
		学年末考査		○	○	○		定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 理数科

教科	理数	科目	理数数学Ⅱ	単位数	7 単位	年次	2 年次
使用教科書	「改訂版 数学Ⅱ」「改訂版 数学B」 理科のみ「改訂版 数学Ⅲ」（数研出版）						
副教材等	「改訂版 サクシード Ⅱ+B」 文科のみ「改訂版 シニア数学演習ⅠAⅡB」「メジアン数学演習ⅠAⅡB」 理科のみ「改訂版 サクシード 数学Ⅲ」（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・授業では知識の蓄積だけでなく、例題および問題演習を積極的に行うことにより、それらの知識を活用する力と論理的に表現する力を育成していきます。
- ・「予習」→「授業」→「復習」のサイクルをしっかりと身に着けよう。
- ・問題演習の扱いについては担当者の指示に従ってください。
- ・家庭学習で既習事項の定着をしっかりとってください。
- ・文科においては、ⅡBの内容が終わり次第、入試演習となります。
解答を見ずに自分でしっかり解けるよう粘り強く問題に取り組もう。
- ・理科においては、ⅡBの内容が終わり次第、数学Ⅲの内容に入ります。計算量もかなり増えますから、正確に解けるようにしていこう。

2 学習の到達目標

- ・数学Ⅱ分野の「微分法・積分法」および数学B分野の「数列」「平面上のベクトル」「空間のベクトル」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。それらを的確に活用する能力を身につけることを目標とし、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようになる。
- ・文科では数学ⅠⅡABの演習を通して、既習単元における基礎的な知識の習得と技能の定着を図る。既習単元の内容を的確に活用する能力を身につけることを目標とし、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようになる。
- ・理科では数学Ⅲ分野の「極限（数列の極限），（関数の極限）」「微分法」「積分法」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。それらを的確に活用する能力を身につけることを目標とし、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようになる。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	数学的活動を通して、微分法と積分法、極限、微分法、積分法、数列、ベクトルにおける考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 文科においては演習を通して既習単元において数学のよさを認識し、それらの事象への考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、微分法と積分法、極限、微分法、積分法、数列、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。 文科においては演習を通して既習単元において数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学的活動を通して、微分法と積分法、極限、微分法、積分法、数列、ベクトルにおいて、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。 文科においては演習を通して既習単元において様々な事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学的活動を通して、微分法と積分法、極限、微分法、積分法、数列、ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。 文科においては演習を通して既習単元における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	プリント、ノート 課題等提出物 観察等	プリント ノート 課題等提出物 定期考査 宿題考査 観察等	プリント ノート 課題等提出物 定期考査 宿題考査 観察等	プリント ノート 課題等提出物 定期考査 宿題考査 観察等
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	微分法・積分法	微分係数と導関数	○	○	○	○	a: 微分法と積分法に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b: 微分法と積分法を考察し、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 微分法と積分法の特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 微分法と積分法に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		接線		○	○	○		
		関数の増減と極大・極小			○	○		
		最大値・最小値, 方程式・不等式			○	○		
		不定積分	○	○	○	○		
		定積分	○	○	○	○		
		面積		○	○			
		体積		○	○			
前期	数列	等差数列	○	○	○	○	a: 数列に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b: 数列を考察し、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 数列の特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 数列に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		等比数列	○	○	○	○		
		種々の数列		○				
		漸化式と数列		○	○			
		種々の漸化式			○	○		
		数学的帰納法	○	○				
前期	平面上のベクトル	ベクトルの演算	○	○	○	○	a: 平面上のベクトルに関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b: 平面上のベクトルを考察し、	定期考査 提出物 授業中の態度等
		ベクトルの成分		○	○	○		
		ベクトルの内積		○	○			
		位置ベクトル, ベクトルと図形		○		○		
		ベクトル方程式		○	○			

							その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 平面上のベクトルの特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 平面上のベクトルに関する基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	
前期〔理科〕	関数	分数関数・無理関数	○	○	○	○	a: 関数に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b: 関数を考察し、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 関数の特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 関数に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		逆関数と合成関数		○	○			
前期〔文科〕	入試問題演習	理数数学Ⅰ・Ⅱ全般の 入試演習 数と式 関数と方程式・不等式 式と証明, 論理 整数の性質 場合の数・確率 図形の性質 図形と式 三角・指数・対数関数 データの分析	○	○	○	○	a: 入試問題に関心をもち、既習の単元の性質を考察しようとしている。 b: 入試問題演習を通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 既習の単元の内容を用いて表現・処理する仕方などの技能を身につけている。 d: 既習の単元の基本的な性質を理解し、知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の演習等

後期	空間上のベクトル	空間の座標	○	○	○	○	a: 空間のベクトルに関心をもつとともに, それらの有用性を認識し, 事象の考察に活用しようとしている。 b: 空間のベクトルを考察し, その過程を振り返ったりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 空間のベクトルの特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 空間のベクトルに関する基本的な概念を理解し, 知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		空間のベクトル, ベクトルの成分		○	○	○	a: 空間のベクトルに関心をもつとともに, それらの有用性を認識し, 事象の考察に活用しようとしている。 b: 空間のベクトルを考察し, その過程を振り返ったりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 空間のベクトルの特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 空間のベクトルに関する基本的な概念を理解し, 知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		空間のベクトルの内積		○	○		a: 空間のベクトルに関心をもつとともに, それらの有用性を認識し, 事象の考察に活用しようとしている。 b: 空間のベクトルを考察し, その過程を振り返ったりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 空間のベクトルの特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 空間のベクトルに関する基本的な概念を理解し, 知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		位置ベクトル, ベクトルと図形		○	○			
		座標空間の図形	○			○		
		平面の方程式, 直線の方程式				○		
							a: 空間のベクトルに関心をもつとともに, それらの有用性を認識し, 事象の考察に活用しようとしている。 b: 空間のベクトルを考察し, その過程を振り返ったりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 空間のベクトルの特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 空間のベクトルに関する基本的な概念を理解し, 知識を身につけている。	

後期〔理科〕	極限	数列の極限	○	○	○	○	a: 極限に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		無限級数		○	○	○		
		関数の極限		○		○		
		関数の連続性		○	○			
							b: 極限を考察し、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 極限の特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 極限に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	
後期〔理科〕	微分法	微分係数と導関数	○	○	○	○	a: 微分法に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b: 微分法を考察し、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 微分法の特徴をいろいろな方法で表現・処理する技能を身につけている。 d: 微分法に関する基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		導関数の計算			○	○		
		三角, 対数, 指数関数の導関数			○	○		
		高次導関数, 関数のいろいろな表し方と導関数		○	○	○		
後期〔理科〕	微分法の応用	接線と法線	○	○	○	○	a: 微分法の既習事項を利用して応用しようとしている。 b: 微分法の既習事項を利用して数学的な見方や考え方で応用しようとしている。 c: 微分法の既習事項を利用して表現・処理する技能において応用しようとしている。 d: 微分法の既習事項を利用して応用的な知識を身につけている。	定期考査 提出物 授業中の態度等
		平均値の定理		○	○			
		関数の値の変化, 最大・最小		○		○		
		関数のグラフ	○	○				
		方程式・不等式の応用		○	○			
		速度と加速度, 近似式	○			○		

平成 31 年度 理数科

教科	理数	科目	理数物理	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	改訂 高等学校 物理 (第一学習社)						
副教材等	2018 セミナー 物理基礎+物理 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・予習よりも復習に重点をおいて学習してください。学習内容を理解するだけでなく、活用できるように復習することが大切です。
- ・疑問点を見つけることを大切にしてください。そのためにも問題集は日頃からコツコツ解いておきましょう。見つけた疑問点は質問するなどこまめに解消して下さい。
- ・復習は、授業があった日、週の終わりに 1 週間分、単元の終わりに 1 単元分と複数回行うことがとても効果的です。
- ・授業用のノートと問題演習用のノート (またはルーズリーフ) を別に用意してください。

2 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての講義や観察・実験を通して、自然に対する探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する科学的な自然観をもてるようになる。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 意見交換時の発表内容 「今日の発見」の内容 提出物など	学習状況の観察 意見交換時の発表内容 提出物・レポート 定期考査など	観察・実験の状況観察 レポート 定期考査など	学習状況の観察 レポート 定期考査など
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	運動とエネルギー	1. 平面内の運動 (ア) 曲線運動の速度と加速度 平面内を運動する物体の運動について理解すること。 (イ) 放物運動 斜方投射された物体の運動を理解すること。 2. 剛体のつり合い (ア) 剛体のつり合い 大きさのある物体のつり合いを理解すること。 3. 運動量 (ア) 運動量と力積 運動量と力積の関係について理解すること。 (イ) 運動量の保存 物体の衝突や分裂における運動量の保存を理解すること。 (ウ) はね返り係数 衝突におけるはね返りについて理解すること。	○	○	○		b: 平面上の物体の運動について、直線上の運動と関連させて考察し、考えを表現している。 a: 剛体にはたらく力のつりあいなどに関心を持ち、身近な物体について定量的に考えようとしている。 c: 大きさのある物体を用いたつりあいについて、観察・実験を行い、力学実験における操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 d: 運動量と力積の関係について理解し、知識を身に付けている。 b: 衝突や分裂における運動量と力積の関係について考察し、考えを表現している。	学習状況の観察 提出物・レポート 定期考査など
前期	運動とエネルギー	4. 円運動と単振動 (ア) 円運動と慣性力 円運動を表す方法や働く力などについて、慣性系と非慣性系の違いに留意して理解すること。 (イ) 単振動 単振動を表す方法や働く力などについて理解すること。 5. 万有引力 (ア) 惑星の運動 惑星の運動に関する法則を理解すること。 (イ) 万有引力 万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解すること。	○	○	○	○	b: 円運動と単振動、慣性系と非慣性系の関係について考察し、考えを表現している。 c: 円運動と単振動について観察・実験を行い、力学実験における操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 d: 円運動と単振動の関係、および慣性力について理解し、知識を身に付けている a: 惑星の運動と万有引力発見の過程に関心を持ち、科学的探究の方法を学ぼうとしている。 d: ケプラーの法則、万有引力について理解し、知識を身に付けている。	学習状況の観察 提出物・レポート 定期考査など

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後 期	運 動 と エ ネ ル ギ ー	6. 気体の性質と分子の運動 (ア) 気体の法則と分子の運動 気体の状態に関する諸法則について、気体分子の運動と圧力の関係をとおして理解すること。 (イ) 気体の内部エネルギー 気体の内部エネルギーについて、気体の分子運動と関連付けて理解すること。 (ウ) 気体の状態変化 気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解すること。	○	○		○	a: 気体の状態変化に関心をもち、熱機関の原理や熱効率について学び、エネルギーの有効利用について、科学的に考えようとしている。 b: 気体の法則と分子の運動の関連について、考察し、考えを表現している。 d: 気体の状態変化と分子運動について理解し、知識を身に付けている。	学習状況の観察 提出物・レポート 定期考査など
	波 動	1. 音 (ア) 音のドップラー効果 2次元の音のドップラー効果について理解すること。 2. 光 (ア) 光の伝わり方 光の伝わり方について理解すること。 (イ) 光の回折と干渉 光の回折と干渉について理解すること。		○			b: ドップラー効果について考察し、考えを表現している。 a: 光の伝わり方について関心をもち、像のでき方などについて探究しようとしている。 c: 光の屈折やレンズについて観察や実験を行い、光学実験の技能を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 d: 光の進み方、光の干渉について理解し、知識を身に付けている。	学習状況の観察 提出物・レポート 定期考査など
後 期	電 気 と 磁 気	1. 電気と電流 (ア) 電荷と電場 電荷が相互に及ぼし合う力や電場の表し方を理解すること。 (イ) 電場と電位 電場と電位の関係を理解すること。 (ウ) 物質と電気抵抗 電流を電荷の移動としてとらえ、物質によって抵抗率が異なることを理解すること。	○	○	○	○	a: 電気による現象について関心をもち、探究しようとしている。 b: 電気現象について電場や電位の概念をもとに考察し、考えを表現している。 c: 電流について実験などを行い、電気に関する測定の操作を習得するとともに、結果を的確に記録、整理している。 d: 電場や電位などの概念を理解し、電流に関する知識を身に付けている。	学習状況の観察 提出物・レポート 定期考査など

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3016
------	------

平成 31 年度 理数科

教科	理数	科目	理数化学	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	化学 (啓林館)						
副教材等	自主編集プリント集, スクエア最新図説化学(第一学習社), セミナー化学基礎+化学(第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

物質及び化学変化に積極的に興味関心をもち、自主的にこれを探究する態度と周囲の物質やその変化の理解を通して、科学的な思考力に基づく自然観を養成する。
1 年の化学基礎で学習した内容をふまえ、2 年では化学の「電池と電気分解」と「有機化学」の内容について学習していく。

2 学習の到達目標

実験・観察に重点を置き、直接、物質に触れることによって科学的態度や思考力の育成を図る。自ら調べ、考えをまとめ、内容を適切に表現できるよう、生徒の個々の主体的取り組みを重視する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	化学的な事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、対象を科学的に考察し、導きだした考えを的確に表現している。	化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・原則について理解を深め、知識を身に付けている。
評 価 方 法	普段の授業態度 宿題提出などの提出物 実験・観察の取り組み	実験 レポート 定期考査	実験 レポート	小テスト 定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期①	化学反応とエネルギー	電池		○		○	a:電池と電気分解に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的態度を身に付けている。 b:電池と電気分解に関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。	授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考査
		電気分解	○		○		c:観察、実験の技能を習得するとともに、電池と電気分解に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 d:観察、実験を通じて、電池と電気分解に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身に付けている。	
前期②	有機化合物	有機化合物の特徴				○	a:有機化合物に関する事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的態度を身に付けている。	授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考査
		有機化合物の構造式の決定		○			b:有機化合物に関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。	
前期③	炭化水素	飽和炭化水素	○		○		c:観察、実験の技能を習得すると共に、有機化合物に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考査
		不飽和炭化水素	○		○		d:観察、実験などを通じて、有機化合物に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
後期①	酸素を含む有機化合物	アルコールとエーテル	○		○			授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考査
		アルデヒドとケトン	○		○			
		カルボン酸とエステル	○		○			
		油脂とセッケン		○				
後期②	芳香族化合物	芳香族炭化水素				○		授業観察 実験レポート 問題演習 小テスト・定期考査
		酸素を含む芳香族化合物	○		○			
		窒素を含む芳香族化合物	○		○			
		芳香族化合物の分離		○				

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 理数科

教科	理数	科目	理数生物	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「生物」 (東京書籍)						
副教材等	リードα 生物基礎＋生物 (数研出版) サイエンスビュー生物総合資料 (実教出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・日常生活の中で起こるさまざまな自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- ・単に用語を暗記するのではなく、自然現象のメカニズムを理解することが重要である。
- ・予習よりも、復習に重点をおいて学習する。
- ・学習した単元の問題演習を行い、理解を深める。

2 学習の到達目標

- 1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。
- 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。
- 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。
- 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	観察、実験を行い、それらの結果を予測し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察、問答	学習状況の観察、問答、定期考査の結果	学習状況の観察、問答、定期考査の結果	学習状況の観察、問答、定期考査の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期1	生命現象と物質	生物基礎の復習 生体物質と細胞	○	○		○ ○	a: 生命現象と物質に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的態度を身に付けている。 b: 生命現象と物質に関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。	学習状況の観察、問答、定期考査の結果
前期2		生命現象を支えるタンパク質		○	○		c: 観察、実験の技能を習得するとともに、生命現象と物質に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 d: 観察、実験を通じて、生命現象と物質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身に付けている。	学習状況の観察、問答、定期考査の結果
前期3		代謝とエネルギー		○	○			学習状況の観察、問答、定期考査の結果
後期1	遺伝子のはたらき	遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー	○	○	○	○ ○	a: 遺伝子のはたらきに関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的態度を身に付けている。 b: 遺伝子のはたらきに関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。 c: 観察、実験の技能を習得するとともに、遺伝子のはたらきに関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 d: 観察、実験を通じて、遺伝子のはたらきに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身に付けている。	学習状況の観察、問答、定期考査の結果

後期 2	生殖と発生	生物と生殖と配偶子の形成 動物の発生 動物の発生のしくみ 発生をつかさどる遺伝子 植物の発生	○ ○	○ ○ ○	○ ○	○	a:生殖と発生に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的態度を身に付けている。 b:生殖と発生に関する事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断できる。 c:観察、実験の技能を習得するとともに、生殖と発生に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 d:観察、実験を通じて、生殖と発生に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身に付けている。	学習状況の 観察、問答、 定期考査の 結果
---------	-------	--	----------------	-----------------	------------	---	---	--------------------------------

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 31 年度 英語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
英語	総合英語	1	第 2 学年	朝日出版社 CNN Workbook 駿台文庫 システム英単語

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・実際のニュースを使って「聴く」・「読む」・「話す」・「書く」の 4 技能をバランスよく身につけましょう。ニュースの音読、シャドーイングが総合的な英語力アップに効果的です。
- ・英単語学習は英語を使いこなす上でとても大切です。しっかり行いましょう。

2 学習の到達目標（CAN-DO リストによる当該学年の 4 技能の到達目標）

【第 2 学年】履修科目：「異文化理解」（2 単位）、「総合英語」（1 単位）及び「英語表現」（3 単位）

主な教材：上記科目の教科書、教科書の内容に関連した別教材

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
・特定の情報や自分の考えなどについて相手に説明したり、また相手に質問するなど、情報交換や意見交換をすることができる。 ・興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べることができる。 ・様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・スピーチ ・プレゼンテーション	・自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 ・与えられたトピックに関して、少しの時間の準備で自分の意見を明確にしながらかまりのある英文を書くことができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・パラグラフライティング	・自然な速さで話される講義やスピーチ、会話を聞いて論旨を捉えた上で、概要や要点を理解することができる。 ・自然な速さで標準的な発音で話される会話の流れについていくことができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・リスニングテスト	・評論、エッセイなどを一定時間内に読み、各段落のトピック、サポート、例示、詳細などを抑えながら全体の概要を把握することができる。 ・あるまとまった文章を辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・速読記録

3 学習評価（評価の観点と実施方法）

観 点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての 知識理解
実 施 方 法	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「話すこと」と「書くこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「聞くこと」と「読むこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解しているかどうかを的確に評価できる方法で実施。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
CNN Workbook (20 時間)	CNN ニュース	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		- CDの音声を聞いて、ニュースの展開に関心を持ち、知識を深めようとする。 - CDの音声を聞いて得られた情報をメモするなどして、適切に保持し、処理しようとする。	CDの音声を聞いてその内容を理解し、それについてまとめたり、話し合ったりする活動を行う。	- CDの音声を聞いて、ニュースの展開に関心を持ち、知識を深めようとしている。 - CDの音声を聞いて得られた情報をメモするなどして、適切に保持し、処理しようとしている。	- ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。 - ワークブックを取り組みの状況の判断材料として活用する。
		「英語表現の能力」			
		英問に適切に解答する。	ペアで聞いた音声の内容に関して質疑応答しあう。	英問に適切に解答することができる。	- ワークブックを取り組みの状況の判断材料として活用する。 - 定期考査
		「英語理解の能力」			
		- CDの音声を聞いて、ニュースの展開とその関連の仕方を理解する。 - CDの音声を聞いて得られた情報をメモするなどして、適切に保持し、ニュースの全容を把握する。	CDの音声を聞いてその内容を理解したりそれについてまとめたり、話し合ったりする活動を行う。	- CDの音声を聞いて、ニュースの展開とその関連の仕方を理解することができる。 - CDの音声を聞いて得られた情報をメモするなどして、適切に保持し、ニュースの全容を把握することができる。	- ワークブックを取り組みの状況の判断材料として活用する。 - 定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		- CDの音声を聞いて、「短縮」「連結」「脱落」「同化」「弱形」などの英語の発音の規則を理解する。 - 登場人物、出来事、心情、情景描写などの小説の構成要素を理解する。	本文を聞いたり、参考資料による学習を行ったりする。	- CDの音声を聞いて、「短縮」「連結」「脱落」「同化」「弱形」などの英語の発音の規則を理解することができる。 - ニュースの構成要素を理解することができる。	- ワークブックを取り組みの状況の判断材料として活用する。 - 定期考査

システム英 単語 英文 1-48 (2 時間)	英語の基礎 となる英単 語・英熟語 を身につけ る。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		「英語表現の能力」			
		英単語・英熟語を正しく綴り、活用する。	頻出のコロケーションを用いて、英単語・英熟語を学習する。	英単語・英熟語を正しく綴り、活用することができる。	・小テスト ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		英単語・英熟語の意味を正しく理解する。	頻出のコロケーションを用いて、英単語・英熟語を学習する。	英単語・英熟語の意味を正しく理解することができる。	・小テスト ・定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		派生語・同意語・反意語や基本動詞の多義性などを理解して、英単語力の幅を広げる。	本文の派生語・同意語・反意語や基本動詞の多義性の項目を読んで、学習する。	派生語・同意語・反意語や基本動詞の多義性などを理解して、英単語力の幅を広げることができる。	・小テスト ・定期考査

平成 31 年度 英語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
英語	異文化理解	2	第 2 学年	大修館 Genius English Communication II 啓林館 ELEMENT English Communication III

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

英語の 4 技能は全て相互に関係しあっています。お互いの力がお互いを補っているのです、バランスよく習得するようにしましょう。本文を正確に読むのはもちろんですが、何度も聴くことも大切です。英語の表現やイントネーションを身につけましょう。また、同じイントネーションで話すことも大切です。英語の発音の特徴に慣れましょう。

2 学習の到達目標（CAN-DO リストによる当該学年の 4 技能の到達目標）

【第 2 学年】履修科目：「異文化理解」（2 単位）、「総合英語」（1 単位）及び「英語表現」（3 単位）

主な教材：上記科目の教科書、教科書の内容に関連した別教材

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
・特定の情報や自分の考えなどについて相手に説明したり、また相手に質問するなど、情報交換や意見交換をすることができる。 ・興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べるることができる。 ・様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・スピーチ ・プレゼンテーション	・自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 ・与えられたトピックに関して、少しの時間の準備で自分の意見を明確にしながらまとまりのある英文を書くことができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・パラグラフライティング	・自然な速さで話される講義やスピーチ、会話を聞いて論旨を捉えた上で、概要や要点を理解することができる。 ・自然な速さで標準的な発音で話される会話の流れについていくことができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・リスニングテスト	・評論、エッセイなどを一定時間内に読み、各段落のトピック、サポート、例示、詳細などを抑えながら全体の概要を把握することができる。 ・あるまとまった文章を辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・速読記録

3 学習評価（評価の観点と実施方法）

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実施方法	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「話すこと」と「書くこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「聞くこと」と「読むこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解しているかどうかを的確に評価できる方法で実施。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Communication English II Lesson 3 Nature Technology (3 時間)	自然界には生物が環境の中で生き抜くために発達したさまざまなテクノロジーがありそれを環境に優しい科学技術に発展させることができる。このようなネイチャー・テクノロジーについて学び、人間を豊かにする科学技術について考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		自然界のテクノロジーについて、知っていることや思っていることを発言しようとしたり聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	自然界のテクノロジーについて、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりしている。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答える。	授業プリントの各問題に解答する。	授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答えることができる。	定期考査
Communication English II Lesson 9 Justice with Michael Sandel: What's the Right Thing to Do? (4 時間)	ハーバード大学で政治哲学を教えるマイケル・サンデル教授が行った、日本での「白熱教室」における教授と聴衆のやりとりを英文で読み、個々の場面における正義にかなった正しい選択について論理的に考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		個々の場面における「正義」について自分なりに考えた意見を発言しようとしたり、しっかり聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	個々の場面における「正義」について自分なりに考えた意見を発言しようとしたり、しっかり聞こうとしたりしている。	・ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	・各セクションのトピックセンテンスを指摘しながら本文を要約する。 ・EXERCISES などの各問題に解答する。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりできる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		個々の場面において何が「正しい選択」なのかについての意見を理解する。	・英文を読んで内容を理解し、英語の質問に答える。 ・授業プリントの各問題に解答する。	個々の場面において何が「正しい選択」なのかについての意見を理解できる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・個々の場面での「正しい選択」についての知識がある。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解する。	本文を読んでペアで確認したり、プリントによる学習を行ったりする。	・個々の場面での「正しい選択」について理解できる。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解することができる。	定期考査

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Communication English II Lesson 8 Emotions Gone Wild (3 時間)	動物の感情に関する心理学の説明文を読み、動物と人間のコミュニケーションの可能性について考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		動物のコミュニケーションについて、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	動物のコミュニケーションについて、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりしている。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答える。	授業プリントの各問題に解答する。	授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答えることができる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
Communication English II Lesson 10 Donald Woods: Real Journalism Takes Courage Part 2 (4 時間)	南アフリカのアパルトヘイト政策にジャーナリストとして立ち向かったドナルド・ウッズの話を読み、人種差別、ジャーナリストの使命、仕事に対する責任などについて考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		アパルトヘイトについて、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	アパルトヘイトについて、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	・各セクションのトピックセンテンスを指摘しながら本文を要約する。 ・授業プリントなどの各問題に解答する。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりできる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		アパルトヘイトやそれに関わったジャーナリストの使命感について理解する。	・英文を読んで内容を理解し、英語の質問に答える。 ・授業プリントの各問題に解答する。	アパルトヘイトやそれに関わったジャーナリストの使命感について理解できる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・アパルトヘイトについての知識がある。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解する。	本文を読んでペアで確認したり、プリントによる学習を行ったりする。	・アパルトヘイトについての知識を発信できる。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解できる。	定期考査

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Communication English III Lesson 1 Lies, Damned Lies, and Statistics (2 時間)	- 統計がどのように嘘をつくかについて理解する。 - 折れ線グラフを使ったデータの見え方の違いを理解する。 - 統計を利用する際に筆者と読者が気をつけるべきことについて理解する。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		統計の「嘘」について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	統計の「嘘」について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりしている。	- ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする - 定期考査
		「英語理解の能力」			
		授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答える。	授業プリントの各問題に解答する。	授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答えることができる。	- ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする - 定期考査
Communication English III Lesson 2 Language Extinction (4 時間)	- 何が言語を消滅させるのかを理解する。 - 世界の言語を守るためにどのような取り組みが行われているかを理解する。 - 日本で英語を話す人々が増えれば、日本語も消滅するかについて話し合う。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		言語の消滅について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	言語の消滅について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	- 各セクションのトピックセンテンスを指摘し、本文を要約する。 - 授業プリントなどの各問題に解答する。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりできる。	- ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする - 定期考査
		「英語理解の能力」			
		言語が消滅したとき私達が失うものは何かを理解する。	- 英文を読んで内容を理解し、英語の質問に答える。 - 授業プリントの各問題に解答する。	言語が消滅したとき私達が失うものは何かを理解できる。	- ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする - 定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		- 言語の消滅についての知識がある。 - 用いられている文法事項/英語表現を理解する。	本文を読んでペアで確認したり、プリントによる学習を行ったりする。	- 言語の消滅についての知識を発信できる。 - 用いられている文法事項/英語表現を理解できる。	定期考査

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Communication English III Lesson 3 Environment or Orangutans? (3 時間)	・オランウータンが絶滅の危機に瀕している理由を理解する。 ・ヤシ油の人氣がオランウータンにおよぼす影響を理解する。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		オランウータンの絶滅危機について、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	オランウータンの絶滅危機について、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりしている。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答える。	授業プリントの各問題に解答する。	授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答えることができる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
Communication English III Lesson 4 The Truth about Grit (5 時間)	・心理学者が気骨について研究し始めた経緯を理解する。 ・気骨に対するよりよい理解が何を可能にするかを理解する。 ・気骨を鍛える方法について話し合う。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		気骨について、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	気骨について、知っていることや思っていることを発言しようしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	・各セクションのトピックセンテンスを指摘しながら本文を要約する。 ・授業プリントなどの各問題に解答する。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりできる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		心理学者が気骨について研究し始めた経緯を理解する。	・英文を読んで内容を理解し、英語の質問に答える。 ・COMPREHENSIONの各問題に解答する。	心理学者が気骨について研究し始めた経緯を理解できる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・気骨に対するよりよい理解が何を可能にするかについての知識がある。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解する。	本文を読んでペアで確認したり、プリントによる学習を行ったりする。	・気骨に対するよりよい理解が可能にするものを発信できる。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解できる。	定期考査

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Communication English III Lesson 6 The Mpemba Effect (3 時間)	ムペンバが発見した現象について理解する。 ・発見を否定されたときにムペンバが何をしたかを理解する。 ・「ムペンバ効果」をめぐる議論について理解する。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		ムペンバが発見した現象について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	ムペンバが発見した現象について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりしている。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答える。	授業プリントの各問題に解答する。	授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答えることができる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・「ムペンバ効果」をめぐる議論についての知識がある。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解する。	本文を読んでペアで確認したり、プリントによる学習を行ったりする。	・「ムペンバ効果」をめぐる議論についての知識を発信できる。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解できる。	・定期考査
Communication English III Lesson 7 Invisible Gorilla (4 時間)	・ゴリラ実験の方法と結果、それによってわかったことと、それが示すものを理解する。 ・「非注意性盲目」がだれに起こるか、 「注意の錯覚」がなぜ起こるかを理解する。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		ゴリラ実験について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	ゴリラ実験について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	・各セクションのトピックセンテンスを指摘しながら本文を要約する。 ・授業プリントなどの各問題に解答する。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりできる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		ゴリラ実験の方法、結果、考察などについて理解する。	・英文を読んで内容を理解し、英語の質問に答える。 ・授業プリントの各問題に解答する。	ゴリラ実験の方法、結果、考察などについて理解できる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・「非注意性盲目」や「注意の錯覚」についての知識がある。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解する。	本文を読んでペアで確認したり、プリントによる学習を行ったりする。	・「非注意性盲目」や「注意の錯覚」についての知識を発信できる。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解できる。	定期考査

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Communication English III Lesson 9 Praying Hands (3 時間)	・アルブレヒトとアルバートがどのような約束をしたかを理解する。 ・アルブレヒトに学校に行くことを勧められたアルバートが泣いた理由を理解する。 ・「祈りの手」を見たときに、筆者が読者に思い出してほしいことを理解する。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		「祈りの手」について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	「祈りの手」について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりしている。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答える。	授業プリントの各問題に解答する。	授業プリントにおいて本文の流れを的確に把握して答えることができる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
Communication English III Lesson 10 All the Good Things (4 時間)	・マークに関する筆者の思い出を理解する。 ・クラスの雰囲気が悪くなったときに筆者がしたこと、それがどのような効果をもたげたかを理解する。 ・マークの葬式で筆者が知ったことを理解する。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		友人への言動について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりする。	解説などを理解し、英語を話す、書くといった言語活動を行う。	友人への言動について、知っていることや思っていることを発言しようとしたり、聞こうとしたりしている。	ペア・ワークやグループ・ワークの取り組みを観察する。
		「英語表現の能力」			
		本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりする。	・各セクションのトピックセンテンスを指摘しながら本文を要約する。 ・授業プリントなどの各問題に解答する。	本文を読んで、自分の意見を話したり書いたりできる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「英語理解の能力」			
		筆者とマークの関係とクラスで筆者がしたこと、その効果について理解する。	・英文を読んで内容を理解し、英語の質問に答える。 ・授業プリントの各問題に解答する。	筆者とマークの関係とクラスで筆者がしたこと、その効果について理解できる。	・ワークシートを取り組みの状況の判断材料とする ・定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・言葉が人に与える影響についての知識がある。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解する。	本文を読んでペアで確認したり、プリントによる学習を行ったりする。	・言葉が人に与える影響についての知識を発信できる。 ・用いられている文法事項/英語表現を理解できる。	定期考査

平成 31 年度 英語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
英語	英語表現	3	第 2 学年	数研出版 Write to the Point 数研出版 必携英語表現集

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・文法の学習をする際は、ただ覚えるのではなくルールを理解して基礎を固めましょう。
- ・2 年生の英作文はシンプルに。基本的な言葉の使い方と柔軟な発想力を磨きましょう。

2 学習の到達目標（CAN-DO リストによる当該学年の 4 技能の到達目標）

【第 2 学年】履修科目：「異文化理解」（2 単位）、「総合英語」（1 単位）及び「英語表現」（3 単位）

主な教材：上記科目の教科書、教科書の内容に関連した別教材

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
・特定の情報や自分の考えなどについて相手に説明したり、また相手に質問するなど、情報交換や意見交換をすることができる。 ・興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べることができる。 ・様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・スピーチ ・プレゼンテーション	・自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 ・与えられたトピックに関して、少しの時間の準備で自分の意見を明確にしながらまとまりのある英文を書くことができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・パラグラフライティング	・自然な速さで話される講義やスピーチ、会話を聞いて論旨を捉えた上で、概要や要点を理解することができる。 ・自然な速さで標準的な発音で話される会話の流れについていくことができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・リスニングテスト	・評論、エッセイなどを一定時間内に読み、各段落のトピック、サポート、例示、詳細などを抑えながら全体の概要を把握することができる。 ・あるまとまった文章を辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。	総合英語 異文化理解 英語表現 ・定期考査 ・速読記録

3 学習評価（評価の観点と実施方法）

観 点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての 知識理解
実 施 方 法	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「話すこと」と「書くこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	CAN-DO リストによる「聞くこと」と「読むこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解しているかどうかを的確に評価できる方法で実施。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Write to the point 1-18 Exercise A (26 時間)	主語の決定(1)、 (2) 目的の表現 理由の表現 時制(1)、(2) 動詞の語法 関係詞 時間の表現 数字の表現 仮定・条件の基 本・応用 比較の基本・応 用 譲歩の表現 重要表現(1)、(2) A は…だ	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		題材となる文法項目を用いた文や自分の考えを積極的に英語で書いたり、伝えたりしようとする。	題材となる文法項目を用いた文や自分の考えを英語で書いたり、伝えたりする活動を行う。	題材となる文法項目を用いた文や自分の考えを積極的に英語で書いたり、伝えたりしようとしている。	ワークシートを提出させ、その内容を 取り組み状況の判断材料とする。
		「英語表現の能力」			
		・題材となる文法項目を用いた文を書く。 ・自分の考え英語で書いたり、伝えたりする。	題材となる文法項目を用いた文や自分の考えを英語で書いたり、伝えたりする活動を行う。	・題材となる文法項目を用いた文を書くことができる。 ・自分の考え英語で書いたり、伝えたりすることができる。	定期考査
		「英語理解の能力」			
		題材となる文法項目を用いた文を読みその内容を理解する。	題材となる文法項目を用いた文を読みその内容を理解する活動を行う。	題材となる文法項目を用いた文を読みその内容を理解することができる。	定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・日英語の違いについて理解する。 ・題材となる文法項目や用いられる表現の語法を理解する。	教員の説明を聞いたり問題に取り組むなどの活動を通じて題材となる文法項目や用いられる表現の語法を定着させる。	・日英語の違いについて理解することができる。 ・題材となる文法項目や用いられる表現の語法を理解することができる。	定期考査
Write to the point 1-18 Exercise B (26 時間)	主語の決定(1)、 (2) 目的の表現 理由の表現 時制(1)、(2) 動詞の語法 関係詞 時間の表現 数字の表現 仮定・条件の基 本・応用 比較の基本・応 用 譲歩の表現 重要表現(1)、(2) A は…だ	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		題材となる文法項目を用いた文や自分の考えを積極的に英語で書いたり、伝えたりしようとする。	題材となる文法項目を用いた文や自分の考えを英語で書いたり、伝えたりする活動を行う。	題材となる文法項目を用いた文や自分の考えを積極的に英語で書いたり、伝えたりしようとしている。	ワークシートを提出させ、その内容を 取り組み状況の判断材料とする。
		「英語表現の能力」			
		・題材となる文法項目を用いた文を書く。 ・自分の考え英語で書いたり、伝えたりする。	題材となる文法項目を用いた文や自分の考えを英語で書いたり、伝えたりする活動を行う。	・題材となる文法項目を用いた文を書くことができる。 ・自分の考え英語で書いたり、伝えたりすることができる。	定期考査
		「英語理解の能力」			
		・題材となる文法項目を用いた文を読みその内容を理解する。	題材となる文法項目を用いた文を読みその内容を理解する活動を行う。	・題材となる文法項目を用いた文を読みその内容を理解することができる。	定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・日英語の違いについて理解する。 ・題材となる文法項目や用いられる表現の語法を理解する。	教員の説明を聞いたり問題に取り組むなどの活動を通じて題材となる文法項目や用いられる表現の語法を定着させる。	・日英語の違いについて理解することができる。 ・題材となる文法項目や用いられる表現の語法を理解することができる。	定期考査

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Write to the point 発展編 (22 時間)	長文英作文 自由英作文 要約問題	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		・題材について積極的に英語で書こうとする。 ・読み手のことを考えて英語を書こうとする。	題材について英語で書き、読み手のことを考えて適切な表現を用いて表現する活動を行う。	・題材について積極的に英語で書こうとしている。 ・読み手のことを考えて英語を書こうとしている。	ワークシートを提出させ、その内容を 取り組み状況の判断材料とする。
		「英語表現の能力」			
		題材について、今まで学習した表現を用いて自分の言葉で簡潔に書いたり、伝えたりする。	題材について、今まで学習した表現を用いて自分の言葉で書いたり、伝えたりする活動を行う。	題材について、今まで学習した表現を用いて自分の言葉で簡潔に書いたり、伝えたりすることができる。	定期考査
		「英語理解の能力」			
		題材について書かれた文を読みその内容を理解する。	ペアやグループで題材について書いた文を相互に読み、その内容を理解する活動を行う。	題材について書かれた文を読みその内容を理解することができる。	・ワークシートを提出させ、その内容を 取り組み状況の判断材料とする。 ・定期考査
		「言語や文化についての知識・理解」			
		・日英語の違いについて理解する。 ・用いられる表現の文法・語法を理解する。	教員の説明を聞き、問題に取り組むなどの活動を通じて題材となる文法項目や用いられる表現の語法を定着させる。	・日英語の違いについて理解する。 ・用いられる表現の文法・語法を理解する。	定期考査

平成 31 年度 (専) 理数科

教科	理数	科目	課題研究	単位数	1 単位	年次	2 年次
使用教科書	各講座担当者作成教材						
副教材等	各講座担当者作成教材						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

具体的な研究テーマの設定から、課題解決へのアプローチまですべて生徒が主体的に取り組んでいくなかで、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を養ってほしい。

2 学習の到達目標

主に自然科学系の現象に関する課題を設定させ、長期にわたる研究を実施することにより創造性・科学的な思考力・判断力を養うとともに、グループ活動に必要な自主性・協調性を育成する。また、それぞれの研究成果について発表する機会や論文としてまとめる機会を設け、プレゼンテーション能力や報告書作成能力の向上も図る。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	自ら設定した課題に関心をもち、その課題への心構えや研究方法を自ら工夫して取り組む意欲的、計画的な態度がある。	主体的な研究方法の工夫や諸課題の解決を目指して自ら思考を深める。自らの取り組みを相手に対し、的確にわかりやすく表現できる。	課題解決に必要な情報を収集・整理し、観察や実験を行って、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	出席状況 研究に取り組む態度	研究の創意工夫 発表会の内容	観察や実験への取り組み	研究ノートや論文の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
		・研究テーマの設定 ・テーマへの迫り方の模索 ・具体的な研究 ・研究発表会、論文作成	○		○		a:意欲的な研究態度 b:研究への創意工夫 c:観察や実験技能 d:研究内容の知識・理解	出席状況 取組姿勢 創意工夫 発表内容

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

- ※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。